

春の叙勲（自治功労）で桑田宜典さん（東結在住）が瑞宝中綬章を受章されました。

桑田さんは昭和34年に岐阜県に入庁後、商工労働部や衛生環境部等様々な部署を経験されました。

中でも、企画課対策監として在任中に行った、ぎふ中部未来博の基本構想の策定では、「県民総参加の1つとして、開催期間中に各市町村の日を設けました。当時は公的機関がこのような催しを行うことは珍しく大変でしたが、多くの皆さんの協力のおかげで成功することができました。」

また、東海信用組合が破たんした際には「対応に2年かかりましたが、他の金融機関にも協力をお願いし、取付騒ぎを起こすことなく事態を収束できて本当に良かったです。」と、当時の様子を話されました。

平成7年からは副知事として、『将来生産性のある県にしよう』という思いを胸に2期6年間、県民のためにご尽力されました。

釣りやゴルフ、登山など、体を動かす趣味で日々を満喫されている現在の桑田さんは、その一方で「結見守り隊」の一員として、毎日の朝夕に結小学校の児童の登下校や地域の見守り活動をされています。

※瑞宝中綬章とは

公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要と認められる職務を果たし功績を上げた方に贈られる章

春の叙勲で瑞宝中綬章

～桑田宜典さんが自治功労～



町内をきれいに

～安八町赤十字奉仕団が奉仕作業～

4月28日（金）、安八町赤十字奉仕団（梶井和子委員長）が役場周辺の清掃活動を行いました。

この活動は、同団が毎年結支所や名木林神社など町内各所で行っています。

今年はJA西美濃女性部の環境美化活動と連携して、役場周辺の草むしりやゴミ、落ち葉拾いをしました。

梶井和子委員長は「奉仕活動は心の活動です。皆さんの協力のおかげで続けることができ、とても嬉しいです。」と話されました。



▲落ち葉を拾い集める奉仕団の皆さん

地域に根付いた工場に

～株式会社大橋鉄工所と協定を締結～

4月27日（木）、株式会社大橋鉄工所と町の間で工場立地に関する協定を結びました。

大橋達也代表取締役社長は協定式の際、「地域に根付き、地域に愛される工場にしていきたいです。」と話されました。

現在、南條区で工事が進められており、来年の1月から一部操業を開始し、4月から本稼働する予定です。



▲協定書を手にする大橋代表取締役社長（中央）